平成二十七年

正月

初日の出微かな雲間大歓声

せめてとてネクタイを締め屠蘇祝ふ

異論出づ場所定まらぬ初暦

神奈川工科大

丹沢に近い厚木キャンパスから冬の虹

狐嫁す日北天低く冬の虹

春の雪

乳母車雪解け道に轍濃く

太陽もだいぶ北へ移る

梅の香や入り日は富士にあと三寸

春のてんぷら

蕗の薹カマルグの塩振りて食ぶ

ラグビー日本選手権、サントリー痛恨のノックオン

ラグビー人気爆発前夜

ゴールまぢかノッコン溜息春の土

四月　代々木園吟行

日時計の刻は正しき花盛ん

散る花に若人屈託なき笑ひ

場所を得て樹形を定む桜花

花吹雪幼児五人の声嬉々と

敷く花に烏のつるみつむじ風

花の下二人の語り刻止り

根津美術館

根津の庭藍より青き杜若

新緑のイロハカエデの傘の下

大綱中学校野球

薫風と歓声に乗り左中間

柏餅小豆餡なら食ぶと云ひ

マンションの大規模修理工事終わる

工事終はる足場の取れて初夏の富士

代々木公園のヘンリー・フォンダというバラ

名優の名を持ち黄薔薇誇り咲く

五月二十六日
湖尻峠から噴煙を上げる大涌谷

青葉越し煙立つ見ゆ峠道

裾野山荘

ほととぎす庭木刈り込み始むとき

ほととぎす日に五たび聞き心満つ

軒下に蜂の巣

殺生もやむなし軒に巣くふ蜂

五月二十八日、久しぶりに御坂越えで山梨へ
大野原

遠富士や南風吹きゐて草の海

御坂峠

アカシアの香り集めて峠道

生家にて兄丹精の梅を挽ぐ

実梅挽ぐ緑のドームの下に入り

七月一日の夕焼け

万物を染めゐて梅雨の茜雲

代々木五丁目

歩道橋泰山木花に手を伸ばし

夏来る

野仏のお顔迄咲き銭葵

甘酒の冷え冷えを汲む薄き碗

店廃めし料亭の軒つばくらめ

土屋家を訪ねる

鉢植えの蛍袋を手渡され

江戸古代朝顔の種をもらう　朝顔連作

五月

朝顔の芽もそれぞれに鉢の土

八月

縮れ葉に凡庸な青牽牛花

細長き葉の朝顔は裂けし花

十輪を越えた朝

朝顔の花つ離れす朝の風

朝顔の花を数へて日記帳

朝顔の遺伝子に乗り江戸の風

約四十輪の江戸朝顔は壮観

朝顔の百花繚乱冨嶽澄み

数へるも面倒となり牽牛花

九月、十輪を切った

朝顔のつに戻りゐて雲疾し

朝顔の二輪に戻りて雨模様

朝顔の一つに戻り空の澄み

八月初旬、記録的猛暑

払っても払いきれない暑気もあり

暑気払いビールではちと役不足

しかし、秋は来る

前線の過ぎて碧天秋の風

先端に視線留まるわれもこう

兄・泰元より従姉・郁の農園の葡萄

四キロの重さも嬉し葡萄着く

到来の葡萄の重さ声弾み

菊二句

猫集ふ鼻の先には野菊かな

菊の香や唐詩の雅趣にあやからむ

九月十九日　安全保障法案採決

安保とて地に寝る人に秋の雨

花期は短い彼岸花

門脇に茎並びゐて曼珠紗華

丈高き曼珠紗華あり垣の内

九月二十三日　甥、智史新妻真美を伴う

木犀の香に包まれてお新客

暗闇に木犀在るや客送る

九月二十八日　三年ぶりのスーパームーン

名月や琴の音色はぽんぽこぽん

高層の明かりを越えて巨大月

九月二十九日　太尾緑道

椎の実の寄せ集まりて道の端

九月三十日　東京

向島百花園

萩の叢間近に聳ゆ六三四の塔

萩赤白重なったるを潜り行き

浅草

浅草や五重塔に秋高し

東京の空を覆いてちぎれ雲

厚木、バスの窓から

馴染みある山茶花の白バスの窓

十月二十八、二十九日越後湯沢吟行

崖際に霧にも白しダケカンバ

湧き初むる霧より白しダケカンバ

射的屋の明かりの点いて秋の雨

ポルチニのパスタを頼み秋の昼

高原の紅葉に雨と風と霧

十月三十一日　栄助・ゆり　七回忌で帰省

清哲出身の大村悟博士　ノーベル生理医学賞

韮崎市役所に大垂幕

ノーベル賞役所の幕や菊日和

ゆりさんもじゃらして遊んだくろ

ころ柿を嗅ぎつつ歩む黒き猫

山茶花の垣にゆっくり猫隠れ

庭の黒松、マツクイムシにて枯れる

卒然と老松枯れし暮れの秋

家にも寺にもいたるところにサフランの花

サフランの花の並びて寺の脇

サフラン摘む主婦三代の夜なべ技

墓所の脇に俊道師の植えし柚子の大木　鈴生り

亡き数にその名も入りし柚子の主

長坂　隠すものなき　甲斐駒ケ岳

見栄を切る甲斐駒へ柿たわわなり

十一月一日　清泉寮朝快晴

南天に富士浮かびゐて霜夜明く

八ヶ嶺を紅に染め霜夜明く

甲斐駒に紅雲ほのか霜夜明く

底の見えない濁り湯の掛け流し温泉朝ぶろ

濁り湯や湯気に下弦の冬の月

八ケ岳高原大橋

一望の落葉松黄葉山澄めり

談合坂ＳＡ

艶やかに陽光を貯め唐辛子

十一月二日　冷たい雨、本厚木駅前

バスの列傘も間をとる冬の雨

十一月七日から裾野山荘

焼くでなく燃やす秋刀魚や炭火の炉

寄せ鍋や旅に求めしかんずりも

十一月九日　御殿場アウトレット

心満つ買い物をして里黄葉

鶴見川風景

ぽつねんと河原に立ちて櫨紅葉

神奈川工科大学　一転小春日和

小春日や脚輝きて女学生

小春日や学徒熟睡難理論

十一月十四日　パリで銃撃テロ百六十人死ぬ

パリ悲報黄に染まり初むマロニエ樹

十一月二十一日　若手会　その前に散策

九品仏

小春日や銃猟禁止の古き碑に

等々力渓谷

赤き橋映す水面に鰯雲

山茶花の一片浮かぶ手水鉢

散り急ぐ銀杏葉茶屋の紅き傘

二子玉川

新しき街を覆いて鰯雲

新しき街の聖樹の贅極め

十一月二十七日　旧開発二課忘年会　みんなＯＢ、爺々に

強面も訃報に涙忘年会

十二月五日　川崎　ニューヨーク・ハーレム・ゴスペラーズ

ゴスペルの聖夜を聴きて雑踏へ

十二月二十二日

冬至の日入りて鴨居へあと二寸

十二月二十七日　有馬記念、八番人気が勝利

有馬仕舞ふ走る畜生乗る他人